

日文学科のみなさんへ 大学院で学びませんか

卒業後の進路の選択肢の一つとして、大学院進学を考えてみませんか。
大学院修士課程は、次のような人にお勧めです。

- 勉強の面白さがわかってきたので、もうしばらく学業を続けたい。
- 将来の仕事(たとえば国語科教員、日本語教師)のために、もっと実力を付けたい。
- 学部で学んだことを基礎にして、今までとは違った方面の研究をしたい(たとえば言語情報系で修得した技能を生かして、日本語学を研究したい/書道ゼミで学んだ知識を生かして、古典文学を研究したい、など)。

大学院は学者への道、というのは昔の話です。現代では、学部の4年間で広く教養を身につけ、大学院修士課程で専門的な知識や技能を修得して専門職をめざすというのが、世界的な動向となっています。



みなさんが本学の大学院を受験する場合、秋と冬に行われる推薦入試(筆記試験はなく、書類審査と面接だけの入試)を受けることができます。今年度の場合、秋の入試の試験日は10月3日(出願期間は9月7日から17日まで)です。さっさと進学を決め、落ち着いて卒業論文の作成に専念しませんか。

2年間(最長4年)で、修了のために必要な30単位を修得し、修士論文の審査に合格すれば、修士(文学)の学位が授与されます。教員免許を持っている人は、専修免許を取得することができます。学部で教職課程を履修しなかった人は、修士課程在学中に学部の教職科目を聴講することもできます(受講料が必要)。

大学院の学費は、学部の6割程度です。なお、内部進学者は入学金の半額が免除されます。授業のコマ数はさほど多くはありませんから、空いた時間にアルバイトをして学費をカバーすることも可能でしょう。もちろん、奨学制度もあります。

大学院についての詳細は『2016年度 武庫川女子大学大学院要覧 学生募集要項』に記載されています。講堂地下の入試センターで入手して下さい。

なお、質問があれば遠慮なく、大学院専攻長の徳原(tokuhara@bcb.bai.ne.jp)に連絡して下さい。

平成27年度 大学院生研究発表会

- ◆日時 : 平成27年6月24日(水) 17時~18時20分
- ◆場所 : L1-804
- ◆発表者 : 大学院 文学研究科 日本語日本文学専攻 修士1年

◆ タイムスケジュール

◆ 17:00~17:15 『明治現存三十六歌撰』について ―移りゆく時代の中で出版された書物― 中川愛子

卒業論文では、『明治現存三十六歌撰』という歌集の成立事情について、歌人と出版の観点から論じた。歌集を翻刻(現代の活字体に直すこと)した後、入集歌人の略歴等の調査を行った。その調査により、師弟関係にある者や、同じ門下にいるなど、歌人同士の関係性が明らかになった。ただし、編者である山田謙益については未詳の部分も多く、また続編にあたる『明治現存 続 三十六歌撰』の編者・豊島有常との関係性にも疑問点が残ったことから、さらに編者に焦点を絞って考察を進めた。その結果、編者である山田と豊島には「翠園会」において接点があることが明らかとなった。さらに「翠園会」の存在を軸に考えることで、入集歌人との関係性についても見出すことができると結論づけた。

◆ 17:15~17:30 音楽説話における名人霊異譚の様相 妹尾恵里

卒業論文では、音楽説話という形で説話のテーマを絞り調査した。特に、音楽説話の一類型である「名人霊異譚」に注目した。「名人霊異譚」とは、名人といわれるような人物が音楽の演奏をすることで神仏からの反応を得るなど、様々な不思議な出来事に遭遇する説話である。この論文の執筆にあたり、音楽説話というテーマから「名人霊異譚」という一類型に焦点を絞り込み、説話集の中から四作品を調査対象として定めて該当する説話を探し、それらを整理した上で他の音楽説話と比較するなどの考察を加えた。発表では論文の内容を紹介するとともに、これらの執筆過程について報告する。

◇ 17:30~17:40 質疑応答

◆ 17:40~17:55 多文化共生社会における地域日本語教室 奥田唯子

私が行った卒業論文の進め方や調査方法などについて、卒業論文の内容を交えて紹介する。卒業論文では、地域に居住する日本人ボランティアと外国にルーツを持つ学習者が活動する「地域日本語教室」についてまとめた。こうした教室が抱える問題点や他の日本語教育機関との比較において、教室が担う役割について考察したものである。大きな流れとしては、テーマを決定し、論文などのさまざまな文献を集めて読み始め、ゼミで中間発表を行う。その後、提出に向けて執筆を開始し、添削を重ねた後に提出した。調査方法は、フィールドワークという形をとり、私の居住地域で行われている日本語教室でのボランティアや、国内の日本語学校や韓国の大学での教育実習を行った。

◆ 17:55~18:10 『兵庫県姫路市におけるインドシナ難民に対する日本語教育』とフィールドワーク 中塚理子

私は卒業論文で、日本政府が1978年から受け入れを開始した「インドシナ難民」に対して行われた日本語教育について考察した。兵庫県姫路市は、難民達の日本語教育や生活指導が行われる「定住促進センター」が、日本で初めて開設された場所である。前半ではセンターでどのような教育が行われたのか、後半では現在、難民2世3世が抱えている問題について論じた。また本論文では、難民達に関わった様々な日本語教育関係者へのインタビューを行いながら分析・考察をしていくフィールドワークを主な研究方法とした。今回の発表では、本論文の概要を紹介するとともに、私が4年の4月からどのように研究を行っていったかを時間軸に沿って発表していく。

◇ 18:10~18:20 質疑応答

どなたでも聴講自由です! ふるってご参加ください!!

卒業論文について

題目 「音楽説話における名人靈異譚の様相」

目的…名人靈異譚の様相を調査することで、音楽説話の中での位置づけなどについて

考察する。

音楽説話とは

伝承や神話・世間の噂話などを伝える「説話」の中で、特に音楽に関わるものこと

をいう。説話の題材となっている時代(平安(鎌倉時代)における音楽は現代で言うところ

の「雅楽」であり、舞楽・管絃・歌物・国風歌舞など、大きく四つの分野に分かれる。

名人靈異譚とは

先行研究による音楽説話の類型の一つであり、名人と言われるような人物が、音楽の

演奏をすることで神仏からの反応を得るなど様々な不思議な出来事(靈異)に遭遇する説

話のことをいう。①音楽説話であること、②名人といわれるような人物が演奏をすること

と、③人ならざる者が演奏に反応を示すこと、④固有名を持つ楽器が登場しないこと、

という四つの特徴を持つ。

論文内容

はじめに

音楽説話とはどのようなものを指すか、先行研究でたてられた類型について説明し、

論文の目的を述べた。また、調査対象とした四作品(『江談抄』『今昔物語集』『十訓抄』

『古今著聞集』)を明示した。

第一章 名人靈異譚とは

第一節 音楽説話における名人靈異譚

音楽説話における名人靈異譚がどのようなものといえるか説明し、その特徴四点を

判断基準に該当する説話十話を挙げ、その根拠について述べた。

これらの傾向として、「名人が自身の演奏によって靈異に出会うこと」は「立派な

こと」「すばらしいこと」として積極的に評価されていること、靈異の形は(a 共

に演奏する b 神仏が反応 c その他)の三つに分かれることが分かった。

第二節 名人靈異譚以外の音楽説話

名人靈異譚以外の音楽説話として、内容の近い源博雅が登場する音楽説話と比較し

た。この比較から、固有名を持つ楽器(名器)が登場する説話は「名器譚」といえる

こと、名人自身の演奏がみられない説話は「名人譚」といえることが分かった。

第三節 音楽説話以外の名人靈異譚

音楽分野以外での名人靈異譚として、漢詩や和歌の説話を挙げて比較した。どちら

も芸術性の高い分野であるが、話末の評価がみられず、特に和歌では、和歌そのも

のが持つ力に注目していることから、同じ「名人靈異譚」であっても、分野によっ

て必要とされるテーマが異なることが分かった。

第二章 登場する名人たち

名人靈異譚に登場する名人たちについて調査し、彼らが生きていた時代や身分など

から靈異に出会う背景について考察した。登場する名人の生きていた年代が古いもの

ほど身分の高い名人が登場することから、名人の登場が説話の神秘性を強める意味

を持つこと、伝承されてゆくうちに有名な人物の話しか残らない、もしくはより有

名な人物に入れ替わるという可能性が考えられた。

第三章 作品ごとの調査

調査対象とした四作品について、それぞれ音楽説話の配列や描き方の傾向などを調

査し、作品中での名人靈異譚の位置づけを考察した。

それぞれ音楽説話の配列は、様々な分野にある「道」、「諸道」の一つという当時

の音楽の認識を示すこと、音楽説話の収録数が少なくとも名人靈異譚が含まれてい

ることから、音楽説話の中で必要とされるテーマであることが分かった。

おわりに

各章で述べた考察をまとめ、音楽説話における名人靈異譚の位置づけを考察し、反

省点などを述べた。

音楽説話における名人靈異譚の位置づけとして、音楽という「諸道」の中の一つの「道」

を極めた名人たちの神秘性やすばらしさを伝え、敬意を表すとともに、一つのこと

を極める重要性を説くための教訓として、音楽説話に欠かせないものだったと考え

た。また、今後の課題としては、調査できていない他の説話集や楽書に収録された

音楽説話を確認することや、音楽の中で分野や楽器の種類などに注目して調査す

ることなどが挙げられた。

調査過程

テーマ選択

楽器の登場する説話に興味を持っていただくため音楽説話という形で説話のテーマを絞った。中でも名人といわれるような人が音楽の演奏によって靈異に会うという話型に強くひかれたので名人靈異譚に着目した。

参考文献の調査

Q1: や国文学論文目録データベースなどを利用して音楽説話に関する参考文献を収集した。主な参考文献として、稲垣泰一「鬼と名器をめぐる伝承」(窪村文人先生退官記念論集『和歌と中世文学』一九七七年)、中原香苗「楽器名物譚の伝承」(『説話文学研究』三四、一九九九年)、磯水絵『説話と音楽伝承』(和泉書院、二〇〇〇年)を利用した。

音楽説話の収集

参考文献によって、音楽説話がどの作品に収められているかおおよその見当をつけ、音楽説話を収集した。『江談抄』『今昔物語集』『十訓抄』『古今著聞集』『古事談』『続古事談』の六作品から収集した。

調査

先行研究を参考に名人靈異譚といえる説話の特徴を四点挙げ、それを判断基準に収集した音楽説話から名人靈異譚を抽出した。大まかなストーリーが同じである同話が含まれていることを考慮し、調査対象とする作品を四つに絞った。また、音楽分野以外の名人靈異譚を、調査対象と定めた作品の中から収集した。

アウトラインの作成

執筆に先立ち、どのような観点から考察していくか考え、章立てを構成しアウトラインを作成した。

執筆・追加調査

作成したアウトラインに沿って論じ、考察を加えた。また、必要に応じて追加調査を行った。追加調査では主に、同話を対象作品以外から収集し、異同等を確認した。

結論の考察

本論の部分で示すことのできた名人靈異譚の特徴や共通点、他の音楽説話との比較から、音楽説話における名人靈異譚の位置付けを考察し結論とした。

名人靈異譚の例

『今昔物語集』巻二十四

北辺大臣、長谷雄中納言語第一

今昔、北辺ノ左大臣ト申ス人御座ケリ。名ヲ信ト云ケル。嵯峨天皇ノ御子也。一条ノ北辺ニ住給ケルニ依テ、北辺ノ大臣トハ申ス也。万ノ事止事無ク御座ケル中ニ、管絃之道ヲナム艶テ知給ヒタリケル。其中ニモ等ヲナム並無ク弾給ケル。

而ルニ、大臣或時ニ、夜ル等ヲ弾給ヒケル、終夜心ニ興有テ弾給フ間、晝方ニ成テ、難キ手ノ止事無テ取出テ弾給ヒケル時ニ、我が心ニモ、「極シク微妙シ」ト思給ケルニ、前ノ放出ノ隔子ノ被上タル上ニ、物ノ光ル様ニ見ケレバ、「何光ルニカ有ラム」ト思給テ、和ヲ見給ケルニ、長ク一尺許ナル天人共ノ三人許有テ、舞ヲ光リ也ケリ。大臣此ヲ見テ、「我が微妙キ手ヲ取出テ等ヲ弾ケテ、天人ノ感テ下来テ舞フ也ケリ」ト思給フ。哀ニ貴ク思給ケリ。実ニ此レ、奇異ク微妙キ事也。(略)

『古今著聞集』巻第六 管絃歌舞第七 二六八

京極太政大臣宗輔陵王の乱序を吹きて神感ある事

京極太政大臣宗輔、内裏よりまかり出給けるに、月おもしろかりければ心をすまして、車の内にて陵王の乱序を吹き給けるに、近衛萬里小路にて、ちあさき人の陵王の装束をして、

て、車の前にめでたく舞みえけり。あやしくおほえて、車をかけはづして、櫛にしりかけ、一曲みな吹とほし給にけり。曲のおほりに此陵王、近衛より南、萬里小路より東なる社にうちへ入にけり。笛曲も神感ありけるにこそ。やむ事なき事なり。

※引用文献

『今昔物語集』新日本古典文学大系(小峯和明氏校注 一九九三年)

『古今著聞集』日本古典文学大系(永積安明氏他校注 一九六六年)

「多文化共生社会における地域日本語教室」

修士1年奥田暁子

発表の流れ

1. 地域日本語教室について
2. 卒論の内容と調査方法
3. 卒論の進め方

1. 地域日本語教室について

近年、日本社会では国際化に伴って、多文化共生という言葉をよく耳にするようになった。そうした社会の中で、増加している定住外国人に対する日本語教育を行う場として、地域日本語教室が広がりを見せている。

筆者がフィールドリサーチをしたA市の地域日本語教室では、毎週日曜日の10時から11時半まで、学習者が希望する内容の勉強をしている。たとえば、日本語能力検定の勉強や関西弁や災害情報の日本語など、内容はさまざまであった。

教室の目的としては、外国にルーツを持つ学習者たちの日本語学習だけでなく、日本人ボランティアと学習者がお互いに学び合うということが掲げられていた。そうした目的のもと、子ども教室と大人教室にわかれて、ベトナム人や中国人、インドネシア人などさまざまな国にルーツを持つ人たちが学習していた。普段の学習活動やいくつかの交流活動によって、日本人ボランティアと学習者たちはお互いの国の文化に触れたり、学んだりしてお互いへの理解を深めていた。

2. 卒論の内容と調査方法

卒業論文では、こうした地域日本語教室が行っている活動をまとめ、他の日本語教育機関と比較し、地域日本語教室が抱える問題点や役割について考察した。

私は、実際現地に調査しに行ってデータを取っていくフィールドワークという調査方法をとった。具体的には、週に一回地域日本語教室に行き、参与観察し、その後フィールドノートを書くということをしていった。その他にも、教室の立ち上げに関わった人や日本人ボランティアに聞き取り調査をした。こうしたフィールドワークと同時に、さまざまな文献を読み進めていた。

はじめに、日本語を教える場に参加してみたいという思いで、3年の12月頃からボランティアとして地域日本語教室に参加した。その後、卒論のテーマを地域日本語教室にすることに決定し、そこでの経験や調査を基に、教室の成り立ちや実際の様子、活動内容などをまとめた。また、館外学習や年末交流会といった交流活動について、実際の記録を書き進めていった。

さらに、4年の夏に行った国内の日本語学校、海外の大学での日本語教育実習のデータを加えて、地域日本語教室と他の日本語教育機関の異なる点についてもまとめた。(表1)

	大学(国外)	日本語学校(国内)	A市の地域日本語教室(大人)
主となる年齢層	10代から20代	10代から20代	20代から30代
身分	学生	就学生	技能実習生、永住者、配偶者等
授業料	必要	必要	不要
学習形態	クラス制	クラス制	ほぼマンツーマン
出欠	あり	あり	なし
目標設定	あり	あり	なし
場所	大学施設	学校施設	公民館(貸し出し利用)

(表1) 三つの調査対象

地域日本語教室が抱える問題には、ボランティア以外に専門家のサポートが必要である、災害等の緊急事態に関する情報や、行政等の相談窓口の紹介、生活情報などの言語サービスの問題がある。それに加えて、このようなフィールドの比較から、恒常的な場所の確保がなされていないことや、厳しく出欠を取らないので学習者が来なくなってしまうこと、学習者のニーズに合わせて学習するので目標設定があいまいになってしまうことなどの問題点があることもわかった。

先ほど述べた、出欠をとらない、学習目標がないというマイナス面にも思える二点は、見方を変えると、出欠に左右されず、学習目標にとらわれない多様な学習を行えるのだと捉え直すことができる。

そのため、地域日本語教室は学習者にとって、単にことばを学習する場としてあるだけでなく、さまざまな相談を持ち込めるサロンや、居住する地域においての自分の居場所となり得るものだという役割が大きいと考えた。

そうした地域日本語教室の役割をもっと生かすためにも、先ほど問題点としてあげた残りのひとつである、恒常的な場所の確保が重要となると分析した。

3. 卒業論文の進め方

タイムスケジュール

3年	
12月	日本語教室でボランティアを始める
4年	
4月	テーマを決定後、文献集め
8月	日本語学校・韓国の大学での教育実習
10月	中間発表、日本語学校インターンシップ
12月	草稿提出
1月	卒論提出

私は、早い段階で大学院進学を決めたので就職活動を行わなかったが、教育実習や日本語学校でのインターンシップと卒論の執筆が重なった。また、ゼミの半数近くの人たちは、4年の夏以降も就職活動と並行して卒業論文の執筆をしていたので、やらなければいけないことが多かった。

実際に聞いてみると、すべてを同時に行うのは難しいので、早い段階からデータを集め、就職活動とは時間をわけて進めるようにしたという。それには、自分なりに計画をたてておくことや、スケジュールを管理して実行していくこと、担当教官の所へ相談に行くことなどが大切となった。

『兵庫県姫路市におけるインドシナ難民に対する日本語教育』とフィールドワーク

院日修1年 中塚理子

1. テーマを選んだきっかけ

私がこのテーマを選んだきっかけはインドシナ地域にルーツを持つ同級生の存在である。私の地元である姫路市には多くのベトナム人が住んでおり、学校でも同じクラスにベトナム人がいるという光景は珍しくなかったが、その一方で「なぜ、彼らは日本にいるのか。なぜ、大阪や神戸のような都市部ではなく姫路に住んでいるのか。」という疑問を持っていたため。

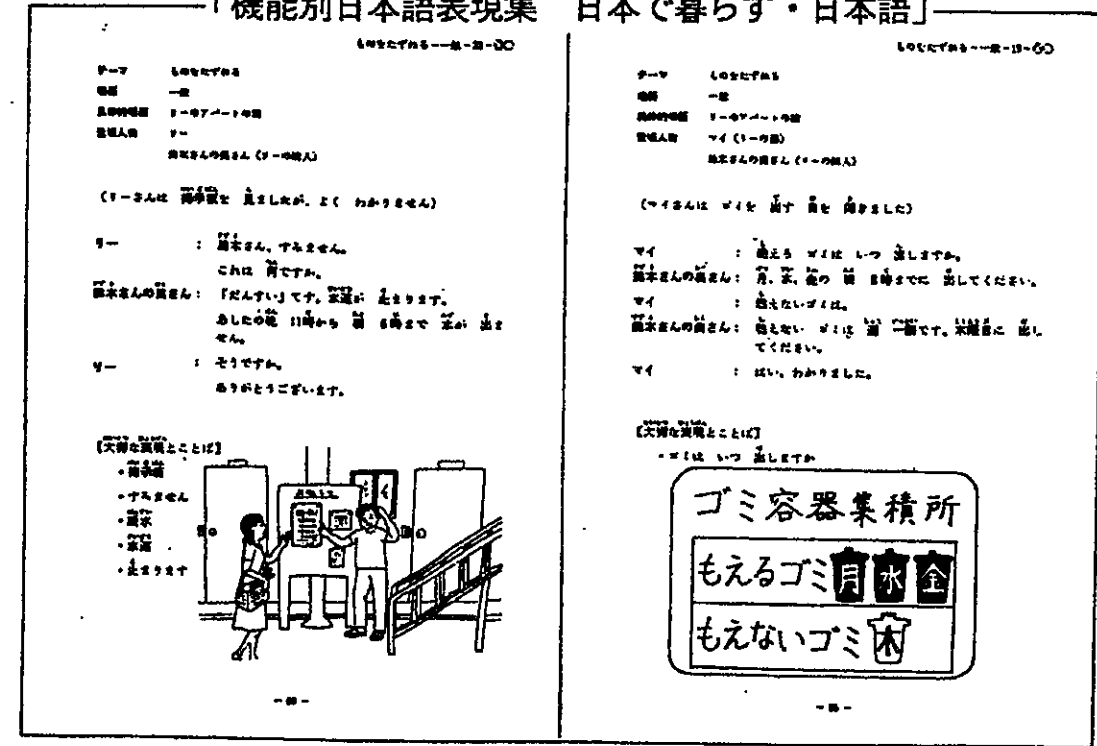
2. インドシナ難民とは

「ベトナム、ラオス、カンボジアのインドシナ三国から急速な社会主義化に適応できず、自由を求めて脱出したり、内戦の戦火を逃れた人々等の、(中略)1975年(昭和50年)のサイゴン陥落以降に主に南ベトナムから小船で脱出したベトナム人(ボートピープル)、メコン河を渡ってタイ領に逃れたラオス人や密林を横切りタイ国周辺のキャンプに逃れたカンボジア人(ランドピープル)のこと」(アジア福祉教育財団難民事業本部, 1996, p. 8)

3. 日本語教育界の転換期

当時の日本語教育は国費留学生等を対象とした積み上げ式の教育法(「読む・書く・聞く」を初級から段階を踏んで指導していく)が主流であった。つまり当時のシラバスでは日本人と日本語でコミュニケーションを築くということが想定されていなかったのである。しかし、難民達への日本語教育に求められたのは日本人とコミュニケーションを行い、日本社会で生活ができる日本語である。また同時に難民達が定住者となって日本で暮らしていけるよう、生活指導を加えた日本語教育が初めて求められることになった。日本語教育関係者が「生活のための日本語」と同じく「生活指導」というカリキュラムを考えることになったのである。生活指導員という役職が存在しなかった当時、これはかなり画期的なことであった。このように言語を体系的に教える授業方法から日本人とコミュニケーションをとるための授業方法へ変化していった1980年代は、日本語教育史の中で大きな転換期になったのである。

「機能別日本語表現集 日本で暮らす・日本語」



『インドシナ難民のための機能別日本語表現集 日本で暮らす』(出所: 姫路工業大学人間学部, 2000, p. 12)

4. 卒論を書いてみて

筆者は本論文を通して「言葉を学ぶ・教える」という言語教育の華やかなイメージとは異なる影の部分垣間見ることができたように思う。留学や趣味で言語を学ぶという状況と、難民達のように母語ではない言語を生きていくために、必要に迫られて学ばなければならないという状況は全く違う。「言葉を必要とする人の現実」はどのようなものなのか、言葉を教える立場にある日本語教師はこの様々な「現実」を理解していかなければならないのだと強く感じた。

5. 研究の流れとフィールドワーク

本論文では難民達に関わった様々な日本語教育関係者5名へのインタビュー(平均1人120分)を行いながら分析・考察をしていくフィールドワークを主な研究方法とした。

・インタビュー調査の手順

2015年6月24日(水)
国文学会

1:交渉 2:依頼文作成 3:インタビュー 4:文字起こし 5:フォローアップ(メール) 6:データ確認 7:分析

- ・持参したもの:ボイスレコーダー、現段階の資料、インタビューの依頼文 等
- ・良かった点:直接知りたいことが聞ける、様々な場所に行くので気分転換になる、人脈が広がる等
- ・大変だった点:文字起こしにかなり時間がかかる

⇒感想:フィールドワークは時間がかかるし、大変なことも多いが、私にはこのやり方が一番合っていたと思う。これから、卒論を書く人は自分に合った研究方法を見つけていってほしい。

6. 他の予定との両立

4年生は主に就職活動と卒業論文との両立などで、どうしても精神的に追い詰められる時がある。

対処法:就活は長期勝負なので焦り過ぎない、ESに飽きたら卒論を書くようにする、就活も卒論もやらない日を作る、ゼミの先生に相談する

参考文献

- ・『姫路市民の「国際化」に対する意識と外国人受け入れの現状:ベトナム人定住者支援活動を中心に』、姫路工業大学環境人間学部国際理解推進研究班、姫路工業大学環境人間学部、2000年
- ・『姫路定住促進センター16年誌:日本で最初のインドシナ難民定住促進の役割を終えて』アジア福祉教育財団 難民事業部、1996年